

令和6年度高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成等事業 生活支援コーディネータースキルアップ研修初任者研修実施報告（HP版）

高齢社会の生きがいづくりや地域の支え合い活動を広げるため、地域福祉関係者が地域でつながりをつくるための技術や手法、心構え等を講義や事例紹介、グループワーク等で実践的に学ぶ研修会を開催！

午前中は、地域福祉関係者が地域の方々と打ち解けて仲良くなるためのアイスブレイクを学んだり、日々感じている課題や悩みを共有し解決するグループワークを行いました。午後は、出向くとよい場所や自分の味方となる周りの人財について再確認するアイデア出しの後、明日から何を始めるか考えていきました。まとめの講義では、地域福祉は、エピソードで語ることに、人とつながるためには自己開示が必要なこと、無駄話も重要なこと、協働は個人と個人のつながりから始まること、高齢者への声かけやアプローチの際の心構え等を学び、大変有意義な研修となりました！

日時：6月12日（水）10時～16時

会場：遊学館（山形市内）

参加者：20名

講師：

廣瀬隆人氏（一般社団法人とちぎ市民協働研究会代表理事）

小川真実氏（若者の居場所こころいき相談員）



***** 参加者VOICE *****

- ・やるべき仕事明确了になりました。
- ・できることから始めること。とても気持ちが楽になりました。
- ・先生のお話全てが、今まで自分がしてきたことは間違いではないと、背中を押してもらった気分になりました。
- ・「これからは助け合う時代」「誰かに必要とされることが大事」という話をきいて、コーディネーターが人をつなぐための大切な役割を担うということを感じました。
- ・悩んでいたことを共有でき、講師や参加者の意見を聞くことで前向きに捉えられ、悩みをいい方向に転換することができました。
- ・普段どうしても「正しく伝えること」を意識して正式名称や難しい言葉を使って説明してしまいがちですが、今後は、エピソードで語ることを意識してみようと思いました。
- ・様々な方とつながりが持てたことで今後様々な場面で相談できる相手ができました。
- ・職員としての接し方ではなく、一個人として相手に向き合うことで、相手も心を開いてくれることに気がきました。

※この事業は県の委託を受け実施しました。